平成２３年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研　究　種　目：一般研究

研 究 代 表 者：山下 博樹（鳥取大学 地域学部・准教授）

研 究 分 担 者：山下博樹（鳥取大学地域学部・准教授）

研究題目（和文）：

北米乾燥地における都市の発達とその特性

研究概要（和文）：

乾燥地における都市開発の先進事例として，アメリカ合衆国南西部の 6 州を対象に，乾燥地における都市開発の持続性の課題と，何らかの要因によってゴーストタウンとなった事例を、2011 年 9 月に実施した現地調査をもとに検討した。

乾燥地での都市開発は，水資源確保のための自然環境への負荷も大きく，持続可能性の点で大きな課題を抱えている。アメリカ合衆国では自然環境保護などの観点から，すでに 1990 年代に大型ダム開発から基本的に撤退した。

他方，乾燥地では多くの水資源を必要とする重化学工業や農業などの発展は多くを期待できない。そのため都市開発の多くは鉱産資源開発を契機としているものが多い。これまでこうした地域ではその資源が枯渇する前に一定の人口集積と産業の確立が出来なかった場合，ゴーストタウンとなるケースが多く，アメリカ南西部においても多くのゴーストタウンの存在しする。

このようにアメリカ南西部ではゴースト化する街が多くみられたなかで，ラスベガスやフェニックスなど一部は大都市へと発展した。今夏の現地調査において，フェニックスでは都市圏内の複数の郊外都市がそれぞれ成長のための基盤を確立し，それらがフェニックスを中心として一体的に発展していることを確認した。今日，大都市へと成長したフェニックスにおいても，コロラド川からフェニックスを経てツーソンに至る導水路が完成したのは 1992 年で，それまでは基本的に地表水と地下水が頼りであった。こうした水資源確保の方法では，水を供給できる都市の数は自ずと限られるため，結果として一部の都市に人口・産業が集中することになる。

鉱産資源の枯渇のほか，治安悪化や災害などによりゴースト化した街は今日廃墟が残されるのみであったり，街は跡形もなくなり歴史地区として地名のみ残っていることが多い。他方でその古い街並みを再生し観光地化したり（ex. ツームストン，AZ 州），空き家を芸術家らに提供し芸術家村として再生した例（マドリッド，NM 州）なども近年増加傾向にある。